安頭/Xさよならポエジー

枚数かなり限定！売り切れ御免！

Kaku Tシャツ (S/M)
￥2.000 (税込み)

sen Tシャツ(S/M)
￥2.000 (税込み)

金字塔 - 関東編 -

2014/1/4 (SAT)
shimokitazawa CLUB251
OPEN 17:30 / START 18:00
ADV 1.800yen / DOOR 2.300yen(WITHOUT DRINK)

安頭(from東京)/さよならポエジー(from神戸)
Lamp in terren(from東京)/mock heroic(from東京)
フィッシュライフ(from大阪)/凍死トナカイ(from京都)

Quesera spunky roars

カラオケ ＪＯＹＳＯＵＮＤにて Quesera spunky roars の曲が歌える！
・Western Carnival・翡翠の海・幾許もねぇ夜を・渚にて

FaceBook の Quesera spunky roars

Youtube には渚にての PV も上がっておりますので 是非ご賞味ください☆

2014/2月号 下北ロック
Quesera spunky roars 特集

公式サイト PC
http://quesera-spunky-roars.com/

Quesera spunky roars MOBILE SITE

■写真家 AKIHIRO (明宏)
2月21日(金)～2月23日(日)

下北沢 GALLERY HIBOU HIBOU
(東京都世田谷区下北沢/03-6804-7939) にて

AKIHIRO 個展【赫'赫 ka'kaku】
を開催いたします。

赫'赫
Ka'KaKu

入場料無料 アーティスト PHOTO 販売無

『下北ロック』vol.25 を手に取っていただき、ありがとうございます！！
今回は太陽族特集です☆
初めてライブハウスで彼らを観た日、
お客さんの笑顔が、ものすごく輝いていた。
こんなにも、お客さんのキラキラを感じることができるのは、
太陽族のライブだから。

それから私も太陽族が大好きになって、
この日見たお客さんの輝きの理由がだんだんわかっていった。

太陽族は、ぽかぽか温かいバンド。

うたものバンドではない。
ロックバンド。
だけど、このバンドの温もりははんぱない。

「そばにいる音」
ボーカル花男さんの言葉。
太陽族はかっこいいだけじゃなくて、
いつでもそばにいてくれる。

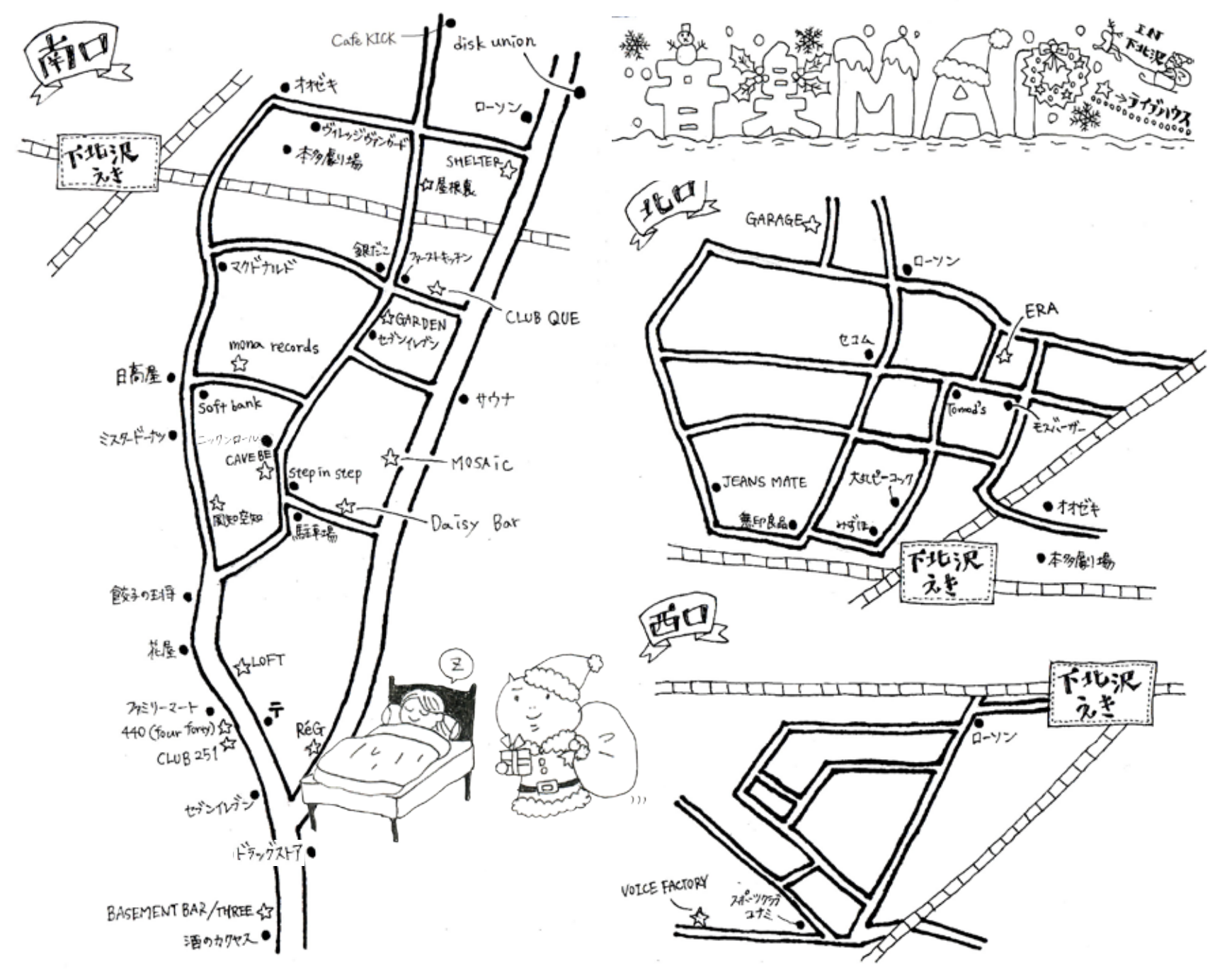
ひとりぼっちなんかじゃない。
彼らの音楽は、ずっとそばにいてくれる。

そんな素敵な太陽族を感じてもらいたい。
一人で寂しくなったら、
ライブハウスに一緒に行きませんか？
終わったあとも、
一人にさせない音楽が待っています。

カエルくん、今日は今回の表紙の写真の、撮影現場に行って来たよ。
下北沢の駅は工事中で、この商店街も、関係者以外立入禁止に。
この奥にはね、『下北ロック』vol.1 で掲載した、「くまさんカレー」
という大好きなカレー屋さんがあって、良く行ってたなぁ。
思い出の場所がなくなってしまうのは寂しいね。

カエルくんの下北ぶらり旅

photo akiko hakamata



南口
Cafe KICK
disk union
オオゼキ
ローソン
ヴィレッジヴァンガード
本多劇場
SHELTER
屋根裏
下北沢えき
銀だこ
ファーストキッチン
マクドナルド
CLUB QUE
GARDEN
セブンイレブン
mona records
日高屋
Soft bank
サウナ
ミスタードーナツ
ニックンロール
CAVE BE
step in step
MOSAIC
風知空知
駐車場
Daisy Bar
餃子の王将
花屋
LOFT
ファミリーマート
440 (four forty)
CLUB 251
RéG
セブンイレブン
ドラッグストア
BASEMENT BAR/THREE
酒のカクヤス
Z
IN 下北沢
ライブハウス
北口
GARAGE
ローソン
ERA
セコム
Tomod's
モスバーガー
JEANS MATE
大丸ピーコック
無印良品
みずほ
オオゼキ
本多劇場
下北沢えき
西口
下北沢えき
ローソン
VOICE FACTORY
スポーツクラブ ユナミ

そっと、そばにいてくれる。
抱きしめたくなるような音楽。
温もりをありがとう。
太陽族に出会えたことが幸せ。
聴けば聴くほど、なんでこんなに好きになるんだろう。
ただのロックなんかじゃない。
今、この時代だからこそ愛される音楽。

interview : Akiko Hakamata、権代めぐみ
photo : AKIHIRO
place : 下北沢屋根裏スタジオ

左から Ba. まる　Dr. りょう　Gt. そら坊　Vo. 花男

太陽族が、メジャーデビューしたのは、私がまだ学生の頃。10年くらい前。当時仲の良かった友達が大ファンで、その影響でなんとなく聴いていた。そこから自主レーベルのBANANA MOON RECORDSになって、初めて出会った太陽族。

彼らのライブへ行くと、たくさんのお客さんがいるのに、なぜだかすぐそばにいてくれるような、そんな存在。インタビュー中に語ってくれた、「産地直送の無農薬野菜を売っているような感じ。」まさにこれ。彼ら自身の手によって届けられる音楽は、なんの加工もなく、ありのままの姿でファンのかたたちに届けられる。これこそが、太陽族の温もり。

今、全てがSNSのネット上で繋がっているような時代だからこそ、太陽族の音楽は、直接的に私たちのもとへと届く。そんな彼らに密着した。

●自己紹介をお願いします！最近観た映画や、聴いた音楽などもあれば！

花男　最近観た映画で一番感動したのは、「かぐや姫の物語」です。ハマっていることは、料理です。きのうからハマっています（笑）。スパゲティを作りました。最近借りた音楽は、ザ・スターリンと頭脳警察とイースタンユースです。1週間前くらいに彼女に振られました（笑）。一人になって楽しいクリスマスを過ごそうと思っています！太陽族の花男です。

●本当ですか!?（涙）

花男　本当です。一生懸命ね、お互い生きていこうと思うので。……下北ロックが大好きだ――!!

●やったー――!!ありがとうございます！

そら坊　ギターのそら坊です。最近は伊坂幸太郎の小説にハマっております。「オーデュボンの祈り」がずっげえ面白い。最近聴いている音楽は、iTuneをシャッフルして「あ、こんなのあったんだ！」みたいな、ちょっと懐かしいような、新鮮な気持ちで聴くのにハマってます。一番びっくりしたのは、花男の弾き語りが急に流れてきて。

花男　（笑）曲は何だったの？

そら坊　曲はね、なんだろ。曲になっていない曲だった。…以上です。よろしくお願いしまーす！

りょう　ドラムのりょうと言います。最近シークワーサーワーにハマってます。

花男　嘘つけー！

りょう　本当だよ。本当なんだよ、これ。『下北ロック』ということでですね、僕、下北沢が昔から大好きで。10代の頃、大親友が新代田に住んでいて、よくこっちに遊びに来る時にそいつの家に泊まっていたんですけど、新代田から歩いて、下北沢を探索するのが好きで。今も、下北から近いところに住んでいるんですけど、なんの目的もなく下北をウロウロするのが好きです。

●下北でオススメのお店はありますか？

りょう　シーシャバーといって、水パイプを吸えるカフェとか、ヴィレヴァンは良く行きます。あと、フリーファクトリー。

花男　高橋歩さんのね。

りょう　そう！全員お客さんが見えちゃうっていうね。

花男　家みたいな感じだよね。

りょう　すごく居心地がいいです。他にもたこ焼き屋さんとかね。色々オススメはあるんですけど…今日は辞めておきます（笑）。

一同　笑

花男　今日だろ！どっちかっていうと（笑）

りょう　本当に好きです。下北大好きです。

まる　ベースのまるです。最近ハマっているものはですね、2チャンネルまとめで怖い話を読むことです。一番最近面白いなと思ったのが、「八尺様」っていうお話があるんだけど。

花男　いいです、それ以上しゃべらなくて…。

まる　すごい背の高い……女の人が……

花男　次行きましょ！（笑）

まる　花男が誕生日にくれたチケットでトイストーリー3を嫁と一緒に観に行ったんですけど、娘がそれにハマって、それを一緒にやたら観てます。最近聴いている音楽は、アンパンマンです。

高校の頃の同級生。あの頃から変わらず、ずっと。

●ありがとうございます！4人高校の同級生ということなんですけど、高校の頃はどういう仲だったんですか？部活とか、クラスとか。

花男　あまり今と雰囲気は変わらない感じがします。サッカー部でまると一緒だったり、バイク繋がりでりょうと一緒だったり。そら坊とはバンドを一緒にやっていたりしたんだけど。

りょう　俺とそら坊は同じバスケ部だった。俺、花男のこと嫌いだった。

花男　おー、俺も嫌いだった。

りょう　嫌いだっただろ、俺のこと。

花男　いや、本当は大好きだったよ！

りょう　1年生の時に、いけ好かねぇ軍団がいて。その一人が花男だった。絶対仲良くならねぇって思ってました。そしたら2年の時に仲良くなって。

●何をきっかけに仲良くなったんですか？

りょう　花男とは最初、別の軍団で、「こいつら一緒にしちゃいけない」って先生の会議があったのだと僕は思っているんですけど。2年生でクラス替えがあって、僕のグ

ループ6人くらいで、全員違うクラスに分けられたんですよ。1、2、3、4、5…10みたいな感じで。花男の仲間も1、2、3って分けられて。それで、お互いバンドをやっているっていうのは知っていたんですけど、仲良くないっていうか、いけ好かねぇなって思っていたので。だけどクラスがお互いの軍団で混じり合ったりして、化学反応が起きてしまいまして、先生の思惑とは逆に、軍団が大きくなって、みんな仲良くなってしまったという。それがきっかけでしたね。たまたま、「学校終わりに海に行こう」ってなって、近くの畑からトウモロコシを持って来たりとか、海でカニを採ってそれを食べたりとか。恋愛話とかして、その日からずっと一緒にいるような気がしますね。

太陽族をやっていて、大変だったこと。良かったこと。

●このメンバーになってから5年め。バンドをやっていて、苦労したことってありますか?

花男　苦労っていう言葉ってネガティブなイメージがあるから、苦労したことって言われると、しっくり来なくて。苦しい労力っていう感じは…ないんじゃないかな。ただ、大変だなって思うことはたくさんあって。最初にBANANA MOON RECORDSを作った頃は、ホームページの管理とか、Tシャツ作ったり、フライヤー作ったり、1回全部自分でやってみようって思って。だけど曲作りもやらなきゃいけない時に、気が狂いそうになったことがあって、まるが「仕事量多いんじゃないか」って言ってくれて、それで仕事を分担してからはよりできることが広がったと思うし、太陽族らしくなったと思う。だからみんな、無理しないことだな。甘えていいんじゃないかなって。バンドを続けるということも大変なこと。毎年「あー、今年も越えられたなぁ」って。ライブやってお客さんがすごい楽しんでいる顔を見たら、辛いことも、頑張って良かったなっていうものに変わってくる。太陽族のライブはいいライブだなって思ってるから、生きる手応えを感じているというか。だから苦労はね、みんなあると思うんですけど、どっちかっていうと「生きているなー」って感じがします。

●逆に、本当に太陽族やっていて良かったなって思う瞬間ってありましたか?

花男　俺的には、今日も、下北の街で写真撮ったり、インタビュー受けているというのが、感慨深いものがある。昔話をしているだけではなくて、来年また頑張って行こうって集まっているのがいいですね。

りょう　お客さんのね、いい顔見た時には、太陽族に入って良かったって思うし、札幌

に姪っ子がいるんですけど、姪っ子が太陽族の曲を歌っているのをうちのお姉ちゃんがビデオで撮ってくれたのを送ってくれた時とか。

花男　そういうの最近あるよね。友達の子供とかさ。嬉しいよな、あれは！

りょう　太陽族で幸せになって、楽しんでくれている人がいるっていうのを感じることができるので、やっていて良かったなって思いますね。

花男　手紙やライブ会場とかでも、「太陽族の曲聴いて、学校行けるようになったんだ」とか「リストカットしてたんだけど、頑張って辞めようと思ったんだ。傷が治って来た」とか笑っている子を見ているとさ、なんかなぁ、なんとも言えない気持ちになるよね。その子たちって、1日1日がさ、生きるか死ぬかっていう感じでぎりぎり生きていると思うんだけど、音楽が道を照らしているんだなって思う時って、そういう言葉を聞いた時に思うからさ、太陽族やっていていいんだって逆に気付かせてもらえたりね。「お母さんに紹介したらお母さんがいつの間にか好きになって歌ってて」とか、そういうのも感動するなぁ。メンバーの親が観に来てる時とかね。ぐっとくるよね。言えばキリがないよね。色々あるよね。一晩飲めるわ（笑）とにかくこの4人でいることが良かったなと思うもん。

●そら坊さんはどういう時ですか？

そら坊　ライブ。

花男　ざっくり！

りょう　ざっくりだけどそうなんだよね、実際は。

そら坊　あれはいい。

りょう　「あれはいい」名言出ました！（笑）

一同　笑

●まるさんはどうですか？

まる　そうですね、物販が売れた時ですかね！

一同　笑

りょう　リアル！

花男　自主レーベルでやっているからね。

まる　いやでも本当、みんな言っていることが全てです。それをずっと思ってました。

●あの福袋すごいですよね!!

花男　まるのブログ見た？感動しちゃった！

●見ましたー！めちゃくちゃ面白いですよね！

花男　個人的見解とかね（笑）

●私物が気になります（笑）例えばどんなものが入っているんですか？

花男　どうするのみんな？

まる　みんなに聞きたい（笑）

りょう　Tシャツがあり余っているからT

シャツ入れようかな。

花男　俺はね、ライブで使ったハーモニカとか入れようと思っていて。前のマネジャーから連絡が来て、俺が福岡で弾き語りライブをやった時のBGMを作ってくれたんだけど、俺のすっごい好きな曲がたくさん入っていて、「花男の私物でどう?」って。10枚くらいそれも入るかもしれない。あとパンツとか入れようかな（笑）

●どんな曲が入っているのか気になりますね。パンツもいいですね（笑）

花男　いいんですか！（笑）

そら坊　私物なぁ、どうしようかな。

●めがねとか（笑）

そら坊　そんなたくさんないよね（笑）前に入れたのは、作ったガンダムのプラモデル。小説も入れた。石田衣良にハマっていて、読み終わったやつとか。あと、つなぎを着ている時期があって、1着だと1個だから、数を増やさなきゃって思って、つなぎを切って、20個くらいに分けて。シリアルナンバーをふって、何分の何とか。ゆくゆくは、みんな出会って1着にまた戻って欲しいなっていう願いを込めていたんですけど、それから2、3年経つんですけど、1個も付いたの見たことない。

りょう　ブログに逆に「何が欲しいですか?」って載せたんですけど、まだチェックしてない。お金とかだったらやだな。

まる　まぁ、私物は私物だよね。

りょう　髪の毛とかあったら怖いよね。

まる　俺の髪の毛とか嬉しくないだろうなぁ。

そら坊　嬉しい人もいると思うよ?

まる　適当（笑）

産地直送の無農薬野菜を売っているような感じ。

て行って、産地直送の無農薬野菜を売っているような感じ。その感じが好きだなぁって今でも思っていて。メジャーでずっとやっていたんだけど、戦力外通告を受けて。メンバーが二人抜けるってなった時に、他のメジャーからも誘いはあったんだけどね、実は。でもね、その人たちが直接会いに来なくて、人伝えで話を聞いたりして、その瞬間にやっぱりだめだって思って。俺はそういう人たち嫌いだなぁって。それで4人集まってからBANANA MOON RECORDSっていう名前でやったんだけど、その感じが好きなんだよね。自分たちの手作りのものを、みんなの手で届けていくっていうのが。それでなんとか音楽で食っていけるような形をとれたらいいなぁと思って頑張っているんだけど、なかなか難しい。でも時代はそっちに近づいている気がするんだ。メジャーデビューして、でっかい事務所に入ってお金もらうっていう音楽のやり方が成功じゃなくて、段々、段々、アイディアが生かされて、自分たちの手で音を届ける方が、俺はね、やりやすい時代になってくると思うしね。大変だけど今は、初期段階にいる感じだから。俺、KENSUKEっていうバンドがすごい好きでさ、観に行った時に、ブリッツとかでお客さん千人くらい集まっているんだけど、物販やっているのがメンバーなんだよ。びっくりしてさ、あれは意識してやっていると思うんだよね。スタッフもいるだろうし。それに感動しちゃってさ。そういう感じがいいなぁって。

●太陽族って、お客さんがいっぱいいるのに、遠く感じない。すごく近くに感じるなぁっていつも思っていて。

花男　この4人で5年間やってきて、みんなの意識の中に「大事にしようね」っていうのがあって。例えば、カレンダーと

BANANA MOON RECORDSのはじまり。

●自主レーベルについて詳しく聞きたいのですが。どういう経緯で作ったんですか?

花男　ずっとやりたかったんだよね。でもメジャーデビューするきっかけがあったから。当時、色んな会社から誘われていた。どこがいいだろうって、3人手挙げたのはメジャーで、俺一人インディーズのレーベルだった。最終的に多数決でメジャーに行くことになったんだけど、俺はずっとインディーズに興味があって。メジャーに行って良かったんだけどね、結果的には。なんで自主レーベルに興味があるかっていうと、メンバーとお客さんの距離がすごい近いなと思ったし。かっこいいなと思ったの。自分たちで考えて作って、自分たちの手で持っ

か、福袋とかさ、送る時にまるが「ありがとう」って1個1個手書きで書いたりとか、俺は「通販俺が送りますから!」ってTwitterで書いたりとか、それによってお客さんはさ、嬉しいじゃん。そら坊やりょうちゃんもライブ会場で自分でアンケート配ったり、そういうのをね、バランスよくやれているのが近いって感じるのかな。曲もさ、ポケットに入っているような曲っていうか、肌に触れているような曲だと思うからね。ただ、そういうのをやろうって思ってやっているだけじゃなくて、そういうバンドなんだろうなぁっていう感じはする。人間的にも。

●そういう感じがします。

りょう　そこが売りだよね。

花男　そうだね。俺らも楽しみながら背伸びせずにやれる感じだし。

りょう　そう。背伸びしない感じが出ているよね。もちろん太陽族のライブとして、ショーじゃないけど、バシっとやらなきゃいけないんだけど、お客さんはお客さんのステージがあって、対等な気持ちでっていうか、普段のままっていうか、背伸びしない自分で太陽族をやろっていうのを心がけている。

そら坊が音楽を始めたきっかけと加入した理由は、寝ぼけてたから。そして、酔っぱらってたから。

●音楽を始めたきっかけを教えてください。

花男　一番始めは、4歳の時にピアノを弾いたのがきっかけで。中学生の時にはビジュアル系のコピーバンドとかやっていた。でもね、一番最初に感動したのは、ススキノっていう札幌の飲屋街でさ、アコギで自分で初めて作った「夢」っていう歌をね、酔っぱらいのおっさんに、「おまえ叫んでいるだけだけど、なんかいいな」って、初めて褒められた。その時にさ、嬉しかったんだよね。人の歌ばっかり歌っていたのに、自分の歌でさ、誰かが喜ぶって、「なんだこの感情!」って。俺がいなかったらこの人今、喜ばなかったろうなって。音楽が自分の生きがいになるんだろうなぁって思った瞬間だったかもしれない。それともう一つは、高校の時に友達のやっているコピーバンドを観に行って、見える世界とか全部ぶっ壊れた気がして、粉々に。なんにもなくなって、ポツンとあったのが音楽で。友達が、RCサクセションとかクラッシュとかピストルズとかブルーハーツとかやってたんだけど、それを観たっていうのも大きかったね。それを観てから自分で曲を作って、ススキノでおっさんに会って嬉しくて、やっていこうっていう感じだったかな。音楽を生きていくためにやっていこうと思ったのは路上だけど、バンドをやりたいって思ったのは、友達のバンドだったね。今でも高校生のコピーバンドっていうのが一番好きな音楽なんだと思う。

そら坊　俺は、高校2年かな。花男と普通の友達で、花男んちで遊んでいて。そしたら寝ちゃったんですよ、俺が。急に花男にタタキ起こされて、「おまえ、ギターやらないか?」って言われて、寝ぼけて「う、うん」って言っちゃったんですよ。多少先輩のライブとか友達のライブとか観に行ってたので、バンドってかっこいいなと思っていて。次の日になって「きのうそういえば、うんって言っちゃったんだよなー」って。バスケ部の先輩で、ギターをやっていた先輩に、「ギター始めたいんです」って言ったら「じゃあギター貸してやるよ」って、借りて、そこで始めたのが今に続いている。

花男　ギター始めてどれくらいで初ライブだったんだろうね?

そら坊　1ヶ月。

花男　すごい短かったよね。

そら坊　練習して、ギターってFっていうコードを押さえられるか押さえられないかで、やるかやらないか分かれるんですけど、俺、一発で押さえられちゃったんですよ。

●才能ですね。

花男　すごいね!一発で。

そら坊　それで多分、面白くなったんでしょうね。当時、まるがギターを弾いていたんです。ライブまで1ヶ月もないからって、曲を練習するので、まるに教えてもらって、それでやったライブがすっごい楽しくて、最初ベースが好きで、ベース弾きたいって思ってたけど、気付いたらギターのほうが好きになっちゃって。

花男　寝ぼけて始めたってことですね。

一同　笑

花男　一緒にやりたかったんだよね。太陽族の時もさ、酔わせて誘ったからね。2回誘っているんだよね。寝ぼけているか、酔っぱらっているか。

そら坊　とても不純な（笑）

●それは狙ってなのでしょうかね（笑）

そら坊　ここまで続けるとは思わなかった。バスケが好きでずっとやっていたから、バスケの道に進むのかと思っていたんですけど、ギターのほうが面白くなっちゃって、今に至りますね。

●良かったですよね!

そら坊　良かったですね。不純ですけどね。

●ありがとうございます!りょうさんお願いします。

りょう　よくCDレンタルで父ちゃんが色々

借りて来て、清志郎やビートルズとか、色んな音楽を聴かせてくれて。それで父ちゃんの影響で音楽がすごい好きだったんですけど。中学の時にブルーハーツがコンビニで流れるのを聴いて、「うわぁなんだこれ!」って。父ちゃんに借りて来てもらって、ブルーハーツを聴いて、「これだったら俺も叩けるなぁ」と思いながら。俺、ずっとスポーツ少年だったんです。小学校の時は野球、中学からバスケットを真剣にやって、でも高校行って、なんか冷めちゃった自分がいて、スポーツ真面目にやっているの、かっこ悪いなぁって。うまが合わない人たちがいたりとかで、部活を辞めて、周りに残ったのが、みんなも昔はスポーツマンだった奴らで、ドロップアウト組っていうか、そういう奴らで仲良くなって、「高校来たんだし、せっかくだから何か輝けるものやろうよ」って。「学校祭あるから、じゃあバンド組もう」って、バンドを組むことになって。

花男　高校の頃から始めたの?

りょう　そう。高校で初めてやって、その時にスタジオで聴いたうるさい音とか、今まで部活では感じられなかった、なんなんだろうな、この衝撃的な衝動。「こんなに面白いことあるんだ。こんなに気持ちいいことあるんだ。」みたいなのを、スタジオで感じて、みんなどっぷりハマって。練習する時も楽しいし。

●なんでドラムだったんですか?

りょう　父ちゃんの影響で、ちょっとだけ習わされたことがあったんですよ。なんか楽器を選べって言われて、一番かっこいいなと思ったのがドラム。音楽教室で短期で習ったことがあって、だから高校の時に、「俺ドラム」ってなって、それがきっかけですね。全然ブランクもあったし、叩けるのもわからないけど、ある程度他のド素人よりはなんとなくわかっているだろうって。

●まるさんお願いします!

まる　アーティストに憧れていたわけでもなく、音楽が好きだったわけでもないんですけど、本当に音楽に触れたのは、中学校の時に友達がギターを始めて、それを家で練習している友達を見て、「なんだこれ、かっこいいな。俺もやりたい。」と。それがきっかけですね。

花男　友達の影響ってでかいよね。

まる　俺、1ヶ月くらいでX-JAPAN弾いていた。俺ギターうまかったんだ。

りょう　まるは、そら坊のギターの師匠。

まる　ベースを始めたきっかけは、花男に「ベース弾いてくれない?」って言われたから。

花男　まるがベース弾いたらなかなかない雰囲気が出るだろうなって。見てみたいってのはあったよね。

まる　やってみたら、超弾きづらかったです。今でも弾きづらいもん。ステージに立つことが好きなわけじゃなくて、例えばジュディマリの曲を覚えて完全にコピーするのが好きだった。

そら坊　完コピすごいですよ。指の形がね、おかしい押さえ方があったりとか、絶対に届かないよっていう押さえかたも、どうなっているのその指!?ってくらい器用なの、まるは。

まる　集中してやり出すと、止まらなくなるたちの人で。初めての曲をコピーしている時に、24時間ギターを弾き続けて、うちの母ちゃんが心配して見に来た。「ごはん食べないのかい?」みたいな。

花男　すごいよねその集中力。なんでなんだろうね。

まる　なんでなんだろう。全然わかんない。

花男　俺にはない!

まる　友達と競ってたのかな。先にどっちが弾けるようになるのかみたいな。

事故がないのはお客さんにもらったお守りのおかげ。

●ツアーでの面白い話とか、思い出話を教えてください!

まる　ぱっと思い浮かぶのが、徳島に行った時に、1日オフがあって。徳島の海岸に行って、海ほたるを見に行ったのが楽しかったな。

りょう　あんまり、みんなでどこか行くっていうのがないよね。オフがあってもね。あの時珍しく、みんなで行くべ!って。

まる　波がぱしゃーんってなる時に、本当にホタルがいるかのように。ピカピカって、すごい綺麗でした。

りょう　車で全国まわっているので、車のトラブルがなんだかんだありますね。居眠りしちゃったりすることもあるけど、でも今まで大きい事故もおこさず、やって来れているのがすごいなって。お客さんにお守りもらってそれを吊るしているのもあるし。みんなのおかげですね。

そら坊　僕もたまに幻覚を見るっていう。一番最初に見たのが、高速走っているのに、馬車が横切ったんですよ。シンデレラに出てくるような。他には両サイドからおじいちゃんが走ってきたりとか。あとは路肩にタモリがいて、笑ってたっていう。「髪切った?」っていう顔をして。でも近づいたら電光掲示板だった。色合いがね、タモリっぽかった。

りょう　危ないよね、それね。

そら坊　それを防ぐために、最近100キロ交代っていう、じゃんけん方式を取り入れています。それで運転したら4人いると3時間は寝れるんですよ。3時間寝たらすっき

りするからね。そのおかげで最近幻覚は見てないです。ぜひお勧めします（笑）

花男　ツアーの思い出ねぇ、色んなことあったなぁ。大船渡にね、フリークスっていうライブハウスができたんだけど、ここにライブハウス作るんだよーっていう時に行ったんだけど、発電機でなんとか電気をおこしてて、ぬるーいビールを飲んで。被災地で音楽を鳴らしてみんなで笑って。震災のあった街で音楽を鳴らしていくっていうのに自信がついた夜だった。その次の日に、仮設住宅でおばあちゃんたちの前で歌って、曲知っているはずもないのにさ、「もっと歌えよー」って。それがターニングポイントになる一日だった。前は、「いい街にしましょう！」って言わなかったんだよね。反省して、めちゃくちゃ言ったの。「前よりいい街にしようぜ！元気でやろうぜ！」って。その流れが音楽やって良かったなって。いい時間だったなぁって。そこから、大船渡とか陸前高田に音楽を届けたい、福島県の小学校でやりたいなぁって。音楽は必要なんだなぁって。小さいけど復興支援をやり始めたきっかけは、大船渡のぬるいビールだったかもしれない。こうやって、こういうところにバンドで行けることに、すごく感じるんだよね、財産だなぁって。

●その震災のことなんですけど、太陽族の曲ってもともと、メッセージ性が強い曲が多いと思うんですが、震災前と、震災後、伝え方など、変わったことってありますか？

花男　もしかしたらね、変わってないかもしれないんだよね。変わってない気がするんだけど、ただ、増えたなぁって思う感情は、音楽が不謹慎だって言われたことがすごく悔しかったからさ。不謹慎って言う人たちには理由があるから、間違いじゃないんだわ、絶対。自分の家族が亡くなってさ、そこでよくわかんないパンクバンドがガンガン鳴らしていて。興味がない人にとっては、「うるさい！」って感じじゃん。でも、自分たちは音楽を生き方として選んでいて、それによって救われて来たし、支えてくれた音楽に対して、不謹慎って言われることが本当に苦しくて。音楽でできることをやりたいっていう反動力にはなった。音楽って大体がさ、「元気出そうぜ！」とかが多いけど。どっちかっていうと、ぐっとくるのは、負け犬もさ、なんとかぎりぎり歌っている、「負け犬だって吠えれるんだぜ」みたいな。「遠吠えをバカにするんじゃないよ」っていう感じの歌、そういう歌がいいんだなぁって、震災後思って、不謹慎なんかじゃなくて、生きてやろうぜっていう原動力になるんだなあって。震災のあった街に行って、いい大人が涙流して、革ジャン来て、手を挙げてるのとか見るとさ、やっててよかったなぁって。みんな同じ気持ちだと思う。そして子供たちに対して何かできることがあったらいいなぁって。太陽族としてすごく合うと思うし、俺たちの本能的にすごいしっくり来るんだよね。俺たちが10代の時に出会って、音楽を今でも続けていて。それもあって、10代の子供たちに、道を作ってやりたいなって。そして、来年の夏に、南相馬で花火を上げようと、募金を集めているんだけど、来年の夏までに50万円を目標にしていたんだけどさ、すでに100万円くらいになって。音楽で花火をあげられるっていうのは、すごく嬉しい。みんなのおかげなんだけどね。音楽をやっている人間としては、すごく嬉しいなぁって。音楽は、不謹慎じゃない。

ライブハウスには、一人で行っても一人にさせない温かさがある。

●下北ロックのコンセプトがライブハウスへ行こうなんです。ライブハウスの良さってなんだと思いますか？

花男　大人数で騒いだり叫んだりしているのに、その曲のあとに、次の曲がさ、ギターのリフとか始まる瞬間、自分のすごい思い出の曲が始まる瞬間、大人数いる中で、うわーって言っているのに一人だけストンと落ちる感覚になる時ない？

●ありますね。

花男　曲の思い出に飛び込むというか。立ち尽くしてさ、周りの景色が見えない、その時の自分と二人きりになって、泣いているみたいなさ。あれはねー、すっごい好きなんだよね。そういう瞬間って、自分では作れないしさ。泣いたり笑ったりさ、決してかっこつけてない自分になって裸になっている自分に合った時って嬉しいんだよね、こんな自分がいたんだ。って。帰る時に「楽

しかったー!!」って叫んで帰りたくなるようなそういう自分になる時ってあるから、そういうふうにさせる魔法のような力、魔法じゃないんだけど、帰り道は一人ぼっちにさせないっていう温かさがあるのが好きだなぁ。何かが変わる瞬間があるかもしれない。俺みたいに、バンドをやろうと思ったり、若い子たちもそうだし、歳とってからもそうだし、人生を変えるくらいのパワーがあるんだよね。魅力的だなぁ。

そら坊　実際音楽だけを聴いて、バンドをやろうっていう人は少ないんじゃないかな。友達がギター弾いている姿を見てとか。「ライブハウスに行くイコールバンドをやりたい」とはまた違うんですけど。目で感じるっていうことは、大事なんじゃないかな。

花男　好きなバンドのライブを観に行った時、メンバーが出て来る時でさえ泣けてくる時あるじゃん。あの感じだよね。ライブハウスのいいところ。「会いに来たんだよなー。いつも家で聴いているこいつらに」みたいなさ、その感覚を味わって欲しいよね。ぐっとくるよね。

そら坊　花男と昔コピーやっていたランシドを初めて観に行って、最初1曲めが、俺らがコピーしてたレディオっていう曲で、涙流して立ち尽くしちゃって、これがライブだ!って。すっごい気持ちが高ぶっちゃって、動けなくなって、感動しちゃって。今まで聴いていた曲を、目で観たら、もっと、ライブっていいなって感じて、観る側の感覚を思い出したっていうか。演奏する側の立場だったから、好きなバンドを観に行く時は、演奏する側の云々じゃなくて、楽しもうとか、観たいという気持ちで観れるから、ライブが良かった。

りょう　特殊だよね。他にはない感覚というか、その時だけ、周りにみんないるんだけど、自分が強くなれたりしたりとか、その瞬間だけは、ステージ上にいるわけじゃないんだけど、自分がキラキラしているっていうか、なんていうんだろうなぁ、なんかね、ドキドキできるでしょ。ライブハウスで体験したことって、帰っても色んなところにドキドキさが残っている。耳のボアボア感だったり、それがずっと続くっていうか。その時だけバカになれるというか、嫌なこと忘れたりできるというか、特殊な空間でだから、来て、一度体験して欲しい場所だなって思います。最近はライブハウスじゃないんだけど、アコースティックライブをやったりしてまして、ライブハウスとは違ってゆっくりした感じでも、生で音を聴いたりとか、CDで聴くのとは全然違うからね。一度体験して欲しいですね。

●来て欲しいですね!

まる　ライブを観て、一番いいなと思うの

は、普段普通に暮らしていて、何気ない1日が毎日繰り返されているような人でも、感情が動くことがいいことだと思う。速い曲聴いてドキドキしたり、遅い曲聴いて、歌詞に共感して涙が出たりとか、それで新しいことを考えたりとか、自分の見えてない視野から外れたところが見えたりするのが、すごくいいことだと思っていて。ライブハウスは音楽じゃない気がしていて、ドラマとか、映画を観た時の感情の揺さぶりだとか同調とか、そういうのと一緒で観たあと、心が豊かになったり、それと一緒で、ライブも観ないと、わからないものなのかなって思うから。何気なくテレビをつけているように、遊ぶ場所だなって思って来てくれたらなと思います。1回観たら、感情が豊かになって、これ嫌いだなっていう感情が生まれてもいいと思うし。動くのがいいと思います、どっち方向でも。楽しいとか、楽しくないとか、やっぱりこっちが好きだったとか。色々あると思うのだけど。そういうのが生まれるのがいいとこかなと思います。

12月23日はワンマンライブ!

●ワンマンの意気込みをお願いします!

まる　頑張るぞ!いつもと変わらず平常心で、みんなを楽しませたいっていうのもあるんですけど、俺は太陽族をやっている理由は、自分が太陽族をやりたいのが一番なので、自分が一番楽しんでやりたいと思います。頑張るぞ!

りょう　今年の締めくくりのワンマンライブなので、曲数もたくさんやりますし、普段対バンのライブだと、なかなか聴けない曲もたくさんあると思うので。あとは、今のメンバーになって初めてライブしたクアトロでまたワンマン。そういうまた特別な場所でもありますので、ぜひぜひ遊びに来てください。頑張ります!

そら坊　ワンマンライブなので、太陽族ならではの雰囲気ってもっと出せると思うんですよ。ワンマンは時間が長いので、もっと花男の小話とか聞けるし、俺の小話も聞けるし、まるのネタも見れるかも。

まる　なんで俺のネタ（笑）

そら坊　何が起こるのがわからないのが、時間の長いワンマンの楽しいところなので、曲も何やるんでしょうね。いっぱいやるんで遊びに来て欲しいですね。頑張ります!お―!

花男　ワンマンが一番いいと思っていて。どんなバンドでも。残念ながら30分のライブよりも。個人的にも今年、太陽族をやって来た中でも、一番いいライブだったなっていうライブをしようと思ってます。みんなが

考えられない感動が必ずあるから。「来ない人は、知らないよ?」っていう感じ（笑）遠くからも来て欲しいですね。渋谷は都会で怖いって思うかもしれないけど、クアトロ入ったら温かい場所があるから。『下北ロック』は東京だけじゃなくて、色んな街の人が見ていると思うから。お金はかかるけど、お金じゃ買えない感動が絶対にあるから、来て欲しいなって思います。会いに!

今後の予定。
ワンマンの次は下北沢屋根裏でカウントダウンライブ!!
(『下北ロック』で初告知!?)
そして2014年中にはアルバムも。

●ありがとうございます!楽しみです!今後の予定はありますか?新曲出るぞー!と

か!アルバム出るぞー!とか!

花男　レコーディングを今、ゆっくりやっていて、2014年中には、新しいアルバムを出したいと思っています。必ず新曲は届けると思います。4人でやっているアコースティックライブもね、本当に面白い。東京だったら、最近は原宿のオジャンカフェでね。お腹空かしてきて、おじや食べてから、みんなで会話するようなライブっていうか、みんなで一緒に一つのテーブルを囲んでわいわい話しているような、温かいライブをしているので。一人でも来て欲しいなって。

●あそこいい雰囲気ですよね。

花男　いいよねー。

●下北沢屋根裏カウントダウンは出るんですよね!?これはオフレコ!?（笑）

花男　カウントダウンするのかな?

まる　俺らがカウントダウン!

花男　盛大なカウントダウンしようよ!

りょう　絶対俺、ゆく年くる年見たい人なんだよね。毎年必ず楽しみにしてて。ゆく年くる年捨ててのライブ。あれより楽しまなきゃいけないっていう。家のストーブガンガンたいて、布団に入りながらあれを見るのが好きなんだよね。

そら坊　除夜の鐘的なのをドラムで!

りょう　108回!?（笑）

●楽しみですね!

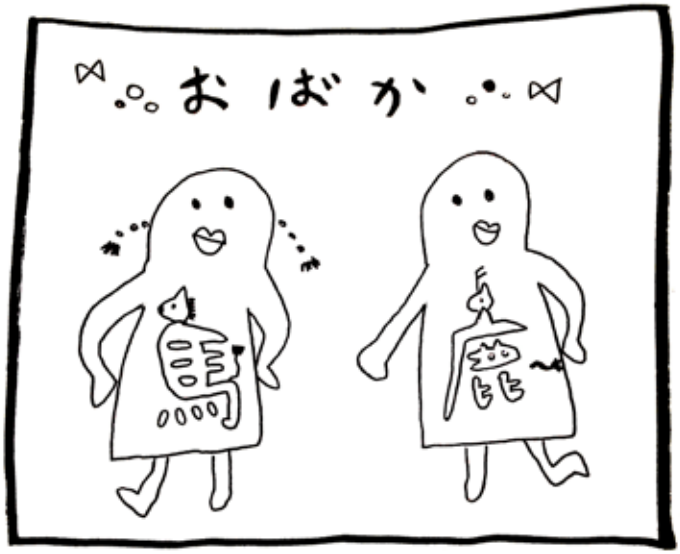
りょう　今年最後にやる曲と、来年初めてやる曲があるんだね。

●そうだ!すごいですね!

花男　いい年になると思います!ずっとさぼっていたので、カウントダウン。誘われてはいたのですが、頑なに断り続けていたので、今年は出勤しようと思います（笑）

文・袴田晶子

太陽族 花男とぽっぽの絵日記ロック



6年9組
太陽族花男

友達が「鹿」のイラストの
Tシャツ着てた。
ぼくは思わず、こう伝えた。
「馬Tシャツがあったら、
いいよね。オレ、馬着るよ。
それで「馬鹿」だよね。
あはははは……」
「…それでね、このTシャツ、
ひつじのイラストもあってね、
いっぱいイラストいーよねー。」
他の友達と話しはじめた。
まったくムシされた。
いっぱい、のゆに馬はっ…ないよね。
絵日記ロック。

日記 花男（太陽族）/ 絵 ぽっぽ

live report -NACANO-

CLUB251 20th ANNIVERSARY『251 LIVE RALLY7』先行レコ発 5 ライブ
@ SHIMOKITAZAWA CLUB251 12.2

set list 1.NIGHTRIDER 2.ESCAPE FROM BEIJING 3.SING ALONG 4.Pepper with Pork and Cucumber
5.DANCE IS LOVE 6.TRAGEDY 7.WE ARE BAND

「音の洪水で251をダンスフロアに変えた熱いＬＩＶＥ!!」

文・大森茉緒子 写真・Kensuke Kataoka
place : SHIMOKITAZAWA CLUB251

12月に入り、年の瀬の慌ただしさが街の空気を染めはじめた頃、『音の出るフライヤー』をコンセプトに下北沢CLUB251が責任監修しているライブ・オムニバス盤シリーズ『251LIVE RALLY』第7段のレコ発イベントが下北沢 CLUB251で開催された。

「Hi-5」「フィッシュバスケット」「The Electros」「傑」というバラエティに富んだラインナップのイベントに、NACANOはトリで登場。

1曲目〝NIGHTRIDER〟から、彼らの登場を待ちわびたオーディエンスが、フロアを熱く熱く盛り上げる。80年代のディスコサウンドの雰囲気を感じさせる彼らの楽曲は、一気にダンスフロアのような熱気で251を埋め尽くす。

続いての〝ESCAPE FROM BEIJING〟で会場はさらにヒートアップ。それぞれが自由に音に合わせ体を揺らして楽しみ、笑顔がフロアにあふれる。

3曲目の〝SING ALONG〟では、ここまでのアッパーな雰囲気とはがらっと変わったせつなげな歌い出しが印象的で、しっとりと客席を聴き入らせた。

「今日から、今やった〝SING ALONG〟のREMIX盤を出すんですけど、この曲と次にやる曲の作詞を、Blie △ N の KenjiGeorge がしてくれて。彼は今日観に来てくれてるので、さっき〝SING ALONG〟の1番のBメロの歌詞を間違えたから『くそっ』て思われたと思うんですけど（笑）次の曲も歌詞がたまに飛ぶことがあるので、ごまかしたら、飛んだんだな～と思ってください（笑）でも、すごいサイコーな歌詞を書いてくれました。アルバムでも詞を書いてもらったので楽しみにしていてください。」と、次回作が楽しみになるようなMCに続いては、〝Pepper with Pork and Cucumber〟Vo.HAYASHI のエモーショナルなボーカルと、ギターリフが印象的なナンバーだ。

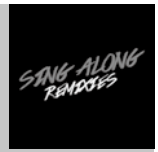
イントロのオリエンタルな雰囲気にいきなり惹きつけられる〝DANCE IS LOVE〟で「いよいよ後半戦！」と言う感じに演奏もどんどんヒートアップしていき、それに反応しオーディエンスもどんどん熱くなっていく。

〝TRAGEDY〟のイントロで、フロアの温度がますます上昇し、さらなる盛り上がりをみせる。

ラストナンバーは〝WE ARE BAND〟。イントロのキーボードの音色がフロアのテンションを最高潮に沸騰させていく。畳み掛けるような音の洪水に、みんなそれぞれ自由に体を揺らし、手を挙げ、思い思いにNACANOの音楽に身を委ね楽しんでいる。

彼らは251をダンスフロアへと変化させ、月曜の夜という憂鬱になりがちな時間をサイコーにHAPPYな夜にしてくれていた。

NACANOのライブは、観る人のテンションをあげ、HAPPYにさせる魅力を持っていると確信させてくれた夜だった。



「SING ALONG REMIXIES」
12 インチ 45 回転（CDR 付属）
￥1,000 円（税込み）
＊現時点ではライヴ会場限定販売

A1: TSUTCHIE（SHAKKAZOMBIE）REMIX
A2: THE SUX REMIX 001
B1: ダイ（MONTBLANC）REMIX
B2: THE SUX REMIX 002

付属 CDR
1. TSUTCHIE(SHAKKAZOMBIE) REMIX
2. THE SUX REMIX 001
3. ダイ (MONTBLANC) REMIX
4. THE SUX REMIX 002
5. SING ALONG original ver.
（feat. ダイ from MONTBLANC）

『左手中指の爪と、とりとめのない話』

イラスト : 徳田 絵海

字が小さく分厚い本ばかりをいつも読んでいた父親は、よく私にこう言った。

「全ての事柄には意味がある」

その言葉が私は嫌いだった。それだったら私の鼻や胸が極端に起伏に乏しいのも、何か意味があるというのだろうか？

そして、人とは明らかに違うこの能力にも、何か意味があるというのだろうか？

物心がついた時から、左手中指の爪だけ早く伸びている気がしていた。

それが確信に変わったのは中学一年生の時だった。そして、その原因も理解した。期末テストを一週間後に控えた冬のある日、私はふと勘づいたのだ。私は何らかのストレスを感じると、左手中指の爪だけ早く伸びる。期末テスト前に爪が急激に伸びたのは、両親の期待に反して私が極度の勉強嫌いだったからだ。

一度気になると、私は何も手につかなくなる。それが自分の身体のことならなおさらのことだった。ストレスを感じることが、早く爪が伸びる原因だと気付いてからは、勉強そっちのけで色々なことを試した。

まず、一時間にわたって、クラスで一番嫌いな女子の名前をノートに書き続けてみた。あらかじめ同じ長さで切りそろえておいた爪は、明らかに左手中指の爪だけ少し長くなっていた。

苦手なホラー映画を観たり、トイレに行くのを長時間我慢したりもしてみた。伸びる長さはまちまちで、実験の成果はそれぞれ納得のいくものだった。おおまか、感じたストレスの量と比例して爪は伸びていた。

こうして左手中指の爪は、私のストレスバロメーターになったのだ。

朝から雪が降り続いていた。

スーパーでのパートを終え、先月五歳になった息子の蘭太郎を保育園に迎えに行き、アパートに帰ってきた時にはクタクタになっていた。傘をさし、夕飯の食材が入った買い物袋をさげ、足元の悪い雪の中を蘭太郎と手を繋いで帰ってくるのは本当に大変だった。靴下まで十二月の冷たい雪がしみ込んでいるのが分かる。半年間思い続けて、二日前にようやく買うことができた白いスニーカーが、もう泥まみれになっていた。

アパートに帰ってきて、先に蘭太郎のレインコートと長靴を脱がせる。狭い玄関を横倒しになった長靴とレインコートが占領した。続いてビショビショになった自分のスニーカーを脱ぐ。濡れているせいか、なかなか脱げない。

やっと脱げたと思ったら、濡れた靴下がつま先でビローンとなっていた。その状況にうんざりしていると蘭太郎が、「ママ、おなかすいた！」と言って、肩からさげていた黄色いカバンを思いっきり私の方めがけて投げた。ふざけて投げたつもりだったのだろうが、五歳児の力加減に容赦は無い。カバンは私の顔面に直撃した。つい先ほどまで冷たい外の空気にさらされていた顔面が悲鳴をあげる。明らかにジョージの遺伝子の方を多く受け継いだその小さな顔が、ケラケラと笑った。

駄目だ。

限界だ。

左手中指の爪を見ると、今朝切ったばかりなのに1センチも伸びていた。ここ最近の伸び方は少し異常だ。

結婚して子供を産んで育てる。こんなことが当たり前のようになっているのはどうしてなのだろう。独りで生きていくと決めている人が、なんだか寂しい人のように思われるのはどうしてなのだろう。家族愛が素晴らしいとされ、それを題材とした小説や映画が多いのは、人類が絶滅に向かっていくのを回避するためではないだろうか？　世の中に、独りで生きていく素晴らしさを説く人やそういった本がまかり通ると、結婚しない人が増えて今より少子高齢化が進んでしまう。それを阻止しようと、何か大きな力が働いているのではないだろうか？

そんなことが頭の中をぐるぐると回っている。そんな思想が私の中で育ち始めている。これは家庭の中に身を置く者としては非常に危険な状態だと思う。

画家になるのが夢だった。シャガールのようなドラマチックで幻想的な絵を描く画家になりたかった。

両親の反対を押しきって、東京の芸術大学に進学した。大学時代から付き合い始めたジョージの子供を妊娠したのは、大学を卒業してすぐのことだった。

大学時代のジョージは本当に魅力的だった。彫刻家志望の彼は、生命力に溢れていた。

ジョージは今も夢を追いかけている。運送屋のバイトをしながら都内に小さなアトリエを借り、作品制作に精を出している。しかし、

ジョージに対する当てつけだ。

時刻は午前5時9分。大学時代からしている白のBaby-Gがそう言っている。汚れた白は何度磨いても、元の真っ白には戻らない。芸術系の大学に身を置く者として、どうしても個性が欲しかった私は、「白が私の色だ」と言って身に着ける物を全て白で統一してきた。しかし、白はどうにもお金がかかる。汚れた白は貧乏臭さを助長してしまう。ため息をつく代わりに「シロ、やめよっかなぁ」とつぶやいたら、吐いた息が真っ白だった。なんとも言えない気分だった。

都心から離れた練馬区はまだ暗い。昨日の雪が残る駅までの道のりを歩きながら、今日をどうやって過ごそうかを考える。せっかくなので出来る限り楽しもうと思った。

映画館で映画を観よう。そして、お洒落なカフェでランチでも食べて、午後は渋谷で買い物をしよう。

そして夜、いつも夕食が終わるくらいの時間にアパートに戻ろう。

そして、ジョージに言う。もっと家事と子育てを手伝って欲しいこと。私も自分の時間が欲しいこと。そして、彫刻家として成功するという夢を諦めて欲しいということを。

そう決意して私は携帯電話の電源を切った。これでジョージは夜まで私に連絡が出来ない。少し困ればよいのだ。私のありがたみを感じるべきだ。

電車に乗り新宿に行った。二十四時間営業のマクドナルドで映画館が開くのを待った。たくさん上映している映画の中から、コメディー映画を選んだ。

いっぱい笑ってやろうと思ったのに、一度も笑うことが出来なかった。二人のことが気になって仕方がなかった。上映中、周りの迷惑にならないようにバッグの中で携帯電話の電源を入れて着信が無いかを確認した。しかし、ジョージからの着信は無かった。確認しては電源を切り、確認する為に電源を入れる作業を何度も繰り返したが、それは全く無駄な行為だった。

映画館を出ると、前から行きたいと思っていたカフェに行った。パスタランチを注文した。食べている間もジョージと蘭太郎のことを考えた。ちゃんと朝食を食べただろうか？保育園にちゃんと送り届けられただろうか？

食べている間も携帯電話の電源を入れて着信がないかを確認した。雑誌で「オススメ」と紹介されていたパスタランチの味がしなかった。

時計を見るとまだ午後1時過ぎだった。夜まではまだまだ長かった。

その後、私は渋谷に行った。買い物をする予定だったが、もう何が欲しいかすらも考えられなかった。ただフラフラと夢遊病者のようにカラフルな商品の森の中をさまよった。携帯電話の電源を切るのをやめたが、ジョージからの着信は無かった。腹立たしい気持ちが、いつしか自分に対しての苛立ちに変わった。

私はいったい何をやっているのだ。

早く帰りたい。

夜までの時間が長かった。

●●●

まさに驚きだった。

私の左手中指の爪は、この日一日で8センチも伸びたのだ。

それは明らかに今までで一番の伸び率だった。どんなに嫌なことや辛いことがあっても、こんなに伸びたことはなかった。

「ママおかえりー」

アパートに着いてすぐに聞こえた蘭太郎の声で、涙が止まらなかった。ジョージは何事も無かったように接してくれた。

次の日から私の左手中指の爪は全く伸びなくなった。一週間経とうが、一ヶ月経とうが、1ミリも伸びなかった。他の指の爪は伸びるのに。

伸びなくなった左手中指の爪の話をジョージにしたら、驚く回答が返ってきた。

「スベテノコトガラニハイミガアルンダヨ」

いつまで経ってもカタカナしか読めないし、発音も良くならない。そんなジョージはいつも穏やかだ。多分、ずっとこの調子だろう。そして、そのジョージの遺伝子のお陰で、蘭太郎の鼻の高さはすでに私のそれを越えている。

来月、彼の両親がオランダから東京に遊びに来ることになっている。ジョージから聞いて知っているかもしれないが、私の口から蘭太郎の名前の由来を教えてあげようと思う。

オランダにはカラフルな花畑がたくさんあるらしい。

私は今月いっぱいで臼い人を卒業すると決めた。

彼の彫刻の作風は年々私の理解を超越するものになってきていて、もう二年ほど作品が売れたという話を聞いていない。穴を開けたコンドームを千個使って、『子孫繁栄』というタイトルのカラフルな立体像を造った時は、「この人は一体何がしたいのだろう？」と本気で思った。「もっと売れそうな物を造ればいいのに」と言っても、ジョージは全く聞こうとしない。ジョージは必死で働いているが、私たちの生活は一向に楽にならない。少しの余裕が出来ても、そのほとんどは制作費とアトリエ代で消えてしまう。

駄目だ。

このままでは私の人生が、生活と子育てと愚痴で終わってしまう。

その夜、私は家出を計画した。

そして次の日の朝早く、こっそりと家を出た。「モウ、ゲンカイ。」という書き置きを残して。

ぽっぽちゃん連載㉓

音楽の輪

「念願の！達郎！」

こんにちは！　ぽぉっぽでございますよ！皆さんお元気でしょうか？

私、１２月は働きまくって働きまくって、クリスマスには下北ロックのミーティングというやつ！笑っちゃう！お腹がよじれそうっ？あー、いつこの悲しいクリスマスとやらを脱出できるのでしょうか。。まぁ、そこは置いといてクリスマスと言ったら、山下達郎でしょ！　♪雨は夜ふけすぎに　雪へと変わるだろ おおお って感じですよね。

ってことで、山下達郎のライブに行ってきました！ついに本物の、生の歌声でそれを聴けたんですよ！もー大興奮だし、感動ものだし。ちょっと寂しくなるし、、でも、やっぱり凄かった！大物なのに、大物感があんまなくて、でもやっぱり大物で！と、どれだけよかったか自慢させていただきます。

まず、同じ時期に来日していたポール・マッカートニーのライブに行くより、私は山下達郎の方が行きたい人間。だって、小さい頃から聞いてきたんだもん。知らぬ間に染み込んでるんですよね。なので、同じく小さい頃から聴いてきて染み込んでいるお兄ちゃんと一緒に行ってきました。

最初は身内に最高に冷たいお兄ちゃんと行くのためらったけど、ここで行かなかったら一生こんなチャンスないかもしれない！と思って。最初で最後というつもりで。でも、そんなの関係なかったよね。本当に行ってよかった。

まず、セットが可愛い！恐竜がいたり、ジェットコースターがあったり、ベンチがあったりなど、遊園地のようなステージで電飾がキラキラ。もっとシンプルに機材だけで出来たシュールなステージだと思ってたので、そのステージを見ただけで絶対素敵なライブになると思ってましたよ！

一曲目が始まると、本当にあのステージの真ん中に立ってるのは山下達郎なのか！と思うくらい遠かったけど、何度も写真などで見てきたステージ衣装と会場全体に響きわたる歌声に鳥肌がバァーって！それと同時に感動してちょっと涙が出た。同じ人間で存在してるのは知ってるけど、でも現実味のない人というか。テレビは出ないタイプの人だから、ちゃんと動いてるのを見たの、もしかしたら初めてかも！って。二曲目三曲目ってどんどん進んでいくに連れて、その世界にのめり込んでいって、寄り目になっちゃってたかも。途中でハッとしてステージ全体を見て、会場全体を見て、隣に座るお兄ちゃんを横目でチラッと見た時に、あー本当に最高だぁって。溶けてしまいそうな感情になりました。

途中途中で曲についての解説があったり、他の会場であの曲を失敗したので改良しましたとか、最近の音楽についてなど、意外と結構しゃべるんですよ！黙々と演奏するのかと想像してたのですが、可愛らしい部分だったりを垣間見る事ができてとっても満足！

しかも、いつか結婚出来るときがきたら式で流そうと思っててお気に入りだった曲をやってくれて、もう頭ん中妄想～？

でも、隣にはお兄ちゃんいるから現実に戻されたりしながら、聴き入ってました。

弾き語りコーナーだったり、こだわって今が一番だ！というメンバー紹介。そのメンバー紹介の中でサックスをふいていた男性が 30 歳位で、生まれた頃にはもう人前で歌を歌っていたその人と同じステージに立てるなんて、私もなにかに一途に取り組んでいたらこんな事もあったのかなぁと思うと、才能の問題もあるだろうけど、この日のステージの事を下北ロックに載せようと思いましたよね。

まぁ、そんな感じでひとりしみじみしてたら、ドンドンのってくるアップテンポな曲になっていって、途中で急にパーーーン！！て。 ビックリした！その音の正体はクラッカー！パーティーとかで使うようなやつ！親からクラッカー鳴らす所あるから持っていきなさいとは言われてたけど、すっかり持っていくの忘れてて。でも、そういえばいつ鳴らすのか聞いてなかったからサプライズみたいで、会場全体がその状態だから、煙くさい。けど、ステージ同様本当に素敵な演出で親世代もまだまだ楽しんでるなぁと思うとこっちまでドキドキしました。そのままの状態でドンドン進んでいき気づくと周りは皆席から立って手をあげながら、最高に楽しんでる。なんか、自分達と変わらないなぁって思った。気持ちがのってきたら、拳あげてモッシュしてみたいな感じ！私もいつの間にか立ってた！お兄ちゃんも立ってて、前のめりになりすぎて前に倒れそうになって危なかった。で、それだけのめり込んでるのに最後の最後にステージの少し高い所に登って、マイクなしの本当の生声で歌ったんですよ！でも、ちゃんと後ろまで何歌ってるか聴こえる！本当に声の通りが良すぎる！ って思うのと同時に、本当にラッキーと思いました。

家族全員でファン。

私の人生の中にいれる事ができて本当によかった音楽であり、ライブでした。

死ぬ最後まで好きでいたいなぁ。

次号予告 !! 『下北ロック』vol.26

『錯乱坊主』 特集

2014年1月20日　発行予定

http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=takuto128

広告募集

『下北ロック』では、バンドやお店など、広告主様を募集しております。

【カラー】　表 4 ￥16,000、表 2/ 表 3 ￥5,000、中身 1 ペ - ジ ￥4,000
【白黒】　1P ￥3,000、1/2P ￥2,000
【下北ロック SITE 内】
- 下北ロック SITETOP に掲載。
- 2 枠まで横 400 ピクセル x 縦 300 ピクセル　30 日間￥2,000
- モノクロにて画像作成、持ち込み画像可

お問い合わせはこちらまで。　shimokitarock10@gmail.com

トゥー・トゥー・トゥーまさおの車は急に止まれない〜！ vol.8

「バンド名と曲名の区別がつかない」

どーも。こんばんよう。気がつけば今年も１２月!あっという間に終わってしまうぜ 2013 年。ついこないだ、あけましておめでとーと言っていたと思ったのになぁ。ホント時が経つのは早いなぁ。街を歩けばクリスマス一色!そんな中ほてほてと新宿を歩いていたら号外を受け取った。（号外ってちょっとテンションあがるよね。）なになに?『マー君』がメジャーあきらめて、FA 取得まで待ってももクロに加入?なんて『ダルビッシュ』のツイートのことなんかではなかった。。『ローリングストーンズ』来日決定!! デカデカと書いてあった。ストーンズってマジすごいね。何年やってるんだ。笑　そりゃ本当に伝説だわな。『ポール・マッカートニー』は観に行けなかったけど、ストーンズは見に行きたいな。誰かチケット頂戴!

さてさて、ローリングストーンズという名前を聞いたときに、俺が最初にイメージしたのは、『ボブ・ディラン』の「Like a rolling stone」だった。でも、本当の由来は『マディ・ウォーターズ』なんだよね。（それを知るまでに何年かかかる）こんな感じで、バンド名と誰かの楽曲ってハッっとイメージすることあるよね?俺の尊敬している『オノチン先生』の『JET BOYS』も『NEW YORK DOLLS』の楽曲にある「JETBOY」から取ったんじゃないかな。（本人に聞いてないから分からないけど、この曲を知らないわけは無い）。『GOING STEADY』は『BUZZCOCKS』か。（曲名じゃなくてアルバムタイトルなところが、センスが良い。）俺のバンドも、大好きな『THE BLUE HEARTS』の曲から取ってる。（バンドを始めて、初めてやった曲がこれだったの。簡単だから。笑）

そう、１０年位前にライブハウスで見たあのバンドは俺も大好きな『ニューロティカ』のあの曲から名前を取ったようだ。そのバンドの思い出をちょっと書くから、気が向いた人は調べてみたらどうでしょうか。そのバンドを知った時パンクなの?なんて可愛いジャケットなんだ!ってのが第一印象。１曲目「クソガキの唄」を聴いたとき、あのジャケットはなんだったんだ。。と思ったよ。ライブハウスに一番通っていた時期ということもあって、すぐライブに行った。音源もよかったけど、なんと言ってもライブだった。すげーよかったなぁ。知らない人から紙飛行機もらって飛ばしまくったなぁ。何百人という人たちが一斉に紙飛行機を飛ばす光景は一見の価値あるぜ。まるで、紙飛行機世界大会のようだ。（そんな大会あるのか?笑）もちろん、ステージまで届かなくてフロア前方の人の頭に刺さる!刺さる!そんなことしたら怒られそうなもんだけど「ノープロブレム」なのである。ライブハウスというのはいいところだ。ちょうど仕事などしていたから嫌なこともあったけど「サヨナラ最悪な日」って感じですべてを発散できたのだ。

そして、ある程度年を取って気がついたのである。「良きも悪きも」自分次第だって。で、良い事ばかり考えていると、まだまだ「どこまでも」行ける気がするんだよなぁ。僕と君がいれば怖くないってね。えっ?で、このバンドはどのバンドだって?うーん。下北あたりのフリーペーパーとかで特集が組まれたりしているらしいからチェックしてみてちょ。あっ、下北だけじゃなく町田にも遊びにキテネ!!笑
おっ、くだらんこと書いていたらもう文字数が、、とりあえずだけど終わりが来ちまった!とりあえずだけど終わりが来る。ラララランランおぉ「バリアフリー」〜♪

まさお Twitter：https://mobile.twitter.com/masao_Thunders
トゥー・トゥー・トゥー HP：http://tootootoo.web.fc2.com/
FUTURE'S HP：http://futurespunk.web.fc2.com/

- 三度の飯よりライブが好き
- 大好きなアーティストを
  サポートしたい
- 音楽に関わる仕事に興味がある

上記のいずれかに当てはまる人は
ここにアクセス

あなたの未来がココにある！

学校法人
東放学園
東放学園音響専門学校

編集後記

『音楽に恋をしている』

どもどもー！こんばわー。最近、チャリンコで下北沢に行くのにハマっている編集長です。というのも…実は今回の太陽族の撮影とインタビュー、深夜にやったんですよ！で、その時に、待ち合わせ場所の下北沢に花男さんが、めちゃめちゃ似合ってる可愛い自転車に乗って登場したのです！

もー、その姿に一目惚れ。ということで、そんな花男さんを真似して私も下北沢にチャリンコで行くようになったわけです（とか、かっこいいこと言ってるけど実は節約のためｗ）いやいや、高円寺のうちから 30 分で着くので、電車より楽なんですよね。うちの職場の店長が、ロードバイクにハマっている気持ちがわかります。いつか、ロードバイクではなくて、折りたたみ自転車だけれど（笑）色んな街に自転車で駆け巡りたい。でも、東京って自転車を置く場所にも困りますよね…。

今回、太陽族特集！ということですが！私今、太陽族に恋をしています。なんていうんでしょう、いつも近くにいて欲しいって思う毎日なんです。いつでもそばにいて欲しい音楽。いつでもそばにいてくれる音楽。こんな音楽に出会えることって幸せ。辛いことがあった日や、仕事に行きたくない日、一人で寂しくなった時に、太陽族の音楽を聴けば、不思議と救われて。

これ、インタビューをしてから更にそういう気持ちになったんです。メンバーの皆さんが、本当に温かくて。温かい人が歌う曲、奏でる曲は、やっぱり温かい。

『下北ロック』今回で、25 号めとなりました。早いですねー。そして、2013 年ももうすぐで終わりなんですねー。『下北ロック』振り返ってみると、本当に長かったなぁ。

このフリーペーパーで伝えたいことって、ずっとずっと変わってなくて。それをちゃんと伝えてこれたのかな。「ライブハウスへ行こう。」をコンセプトにやってきましたが、とにかく、私の好きな音楽を、たくさんの人に共感してもらいたくて。そのためには、一番いいのがライブハウスに行くこと。CD を渡したって、そのまま聴かないで終わってしまうかもしれないし、もちろん CD も素敵な作品なんだけれど、その前にまず、ライブで体験してもらいたい。ライブハウスって、なんだか怖いイメージがあるのだけど、全く怖くなくて、バンドや音楽にもよるかもしれないけど、今回特集の太陽族のライブなんて、ぽかぽか温かい。

ライブハウスで好きになったらもうおしまい。次のライブに行くまでに何度も何度も CD を聴いている。「そんなに聴いて飽きないの？」って思われるくらい聴いている。だから私、音楽の知識はとっても浅いんですね。でも、いいと思うんだ。好きなものに、とことん好きな気持ちをぶつければ。

「音楽が好き」って言えば、なんか、どんな音楽でも知っているかのように思われるから、最近の私は、「音楽が好き」って言わなくなったなぁ。「下北沢のライブハウスに行くことが好きなんです」って言っている。そんな人って、なんかかっこ良くないですか？ただの自己満かもしれませんが（笑）もしも、そういう人に出会ったら、大声を上げて、「友達になってください！」って言っちゃうかも。そういう人が、この『下北ロック』を愛読してくれたら、とてもとても嬉しいですね。

『下北ロック』編集長　袴田晶子

CLUB251 NEWCOMER POWER PUSH EVENT

http://www.club251.com

251presents Play on! 2014

1/7.tue

4日間ともOPEN18:30/START19:00 ¥1,500/¥1,800+D

Manhole New World／自画像／the FIXER／とけた電球

1/8.wed

forsevenoneeightone／in towns／ARIZONA／Qryme

1/9.thu

Quzira／satellite blue metro／アズメルト／dunce

1/10.fri

13日の交差点／HIGH BONE MUSCLE／Hamlas／Luke warm

全バンド収録サンプラーCDプレゼント

「下北ロック」
公式 web サイト

『下北ロック』vol.25 2013.12.20 発行　編集長・発行人 袴田 晶子　TAKE FREE
金魚のフン .. 飯塚 友希／副編集長 権代 めぐみ／デザイナー 大竹 ヒカル
カメラマン AKIHIRO、Kensuke Kataoka ／ライター 松本 絵里香
校正 大森 菜緒子／イラストレーター 徳田 絵海／ロゴデザイン 田戸 圭悟